

＜自転車の安全利用促進委員会レポート＞

島根県教育委員会主催

「令和8年度島根県学校安全（交通安全）研修会」にて
「自転車通学指導セミナー」を8月24日(月)、8月25日(火)に開催

自転車の正しい利用方法や安全安心な自転車の選び方、メンテナンスの重要性を啓発する自転車の安全利用促進委員会と一般社団法人自転車協会は、島根県教育委員会主催のもと、2026年8月24日(月) 益田市、8月25日(火) 出雲市で行われた『令和8年度島根県学校安全（交通安全）研修会』にて、自転車通学指導セミナーを実施し、島根県内の小・中・高・特別支援学校の教職員約60名にご参加いただきました。

島根県の中学生・高校生は、自転車事故時に加害者となる割合が低いものの、中学生の1万人当たりの自転車事故件数は全国ワースト16位と高い結果となっています。また、高校生の1万人当たりの自転車事故件数は40位と低い結果となっていますが、事故件数自体は中学生より多くなっています(当委員会調査による)。前年と比べると、加害事故の件数・割合ともに減少しているものの、事故を未然に防ぐための安全指導は引き続き重要です。

講師の遠藤まさ子(自転車の安全利用促進委員会メンバー／自転車ジャーナリスト)は、島根県の中学生・高校生に自転車事故が多い要因について考えるほか、ヘルメット着用の重要性や、全国で実施されている自転車通学指導の事例を紹介しました。

自転車事故を防ぐポイントとして、「低年齢のうちから意識を変え、事故に遭わないようにするだけでなく、事故を起こさないようにすることを指導することが必要です」と説明しました。

また、中学校や高校への進学を機に初めて自転車通学を始める生徒の中には、ヒヤリハットを経験したことがないケースも多く、危険予知能力を養うための指導が必要であると説明しました。

さらに、2026年4月から施行された16歳以上を対象とする「青切符制度」についても解説しました。島根県警察本部によると、2026年7月時点の検挙数69件のうち、ながらスマホによるものが全てで、その半数が高校生・大学生となっており、特に注意が必要であることを伝えました。また、「自転車利用者が、加害者となる場合もあることを具体的な事例とともに伝えることで、事故の重大性を理解させることができます」と強調しました。

さらに、「通学自転車は毎日乗るため、BAAマークなどの安全マークが付いた自転車を選び、車検のように定期的にメンテナンスをすることが重要です」と解説しました。

講演後は、「限られた時間・多様な通学形態の中で、いかに効果的な交通安全教育を展開するか」をテーマに、各学校の教職員が情報交換を行い、それぞれの取り組みや意見を発表しました。

【参加した教職員の感想】

- ・他県で実施されている具体的な取り組みを知ることができ、今後の本校での交通安全指導に取り入れていきたいと思いました。
- ・自転車事故を防ぐためには、ヘルメットの着用だけでなく、日頃から危険を予測する力を身につけることも重要だと改めて感じました。



西部会場の様子



東部会場の様子

■参考資料

《講師略歴》

遠藤 まさ子

自転車の安全利用促進委員会メンバー／自転車ジャーナリスト

自転車業界新聞の記者や自転車専門誌の編集などを経てフリーランスへ転向。自転車・育児用品を中心に取材を行い各誌に寄稿。自転車の中でも子ども乗せ自転車、幼児車、電動アシスト自転車を得意とし、各種メディアで自転車の利活用、安全指導等解説を行う。



《自転車の安全利用促進委員会》

自転車の安全利用促進委員会とは、一般社団法人自転車協会の協力を受け、安全安心な自転車利用のための啓発活動を行う団体です。自転車の利用者の方々に快適な自転車生活を送って頂くため、購入時に知っておくべき自転車の選び方から購入後のメンテナンス、正しいルール・マナーなどの情報発信を行っています。また、活動の一環として教職員や学生を対象とした、自転車通学指導セミナーも全国で開催しています。

<https://jitensha-anzen.com/>

《BAA マーク》

BAA マークは、一般社団法人自転車協会が定める自転車安全基準に適合した自転車に貼られています。自転車安全基準には全部で約90項目の検査項目があり、ブレーキ制動性能、フレーム・駆動部の強度、ライトの光度、リフレクターの反射性能などの検査に合格する必要があります。

